



田上心リハだより

田上心臓リハビリテーション病院情報誌 第9号 文責：大嶋 秀一

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症は感染症の5類に分類され日常生活は以前の様相を取り戻してきました。ただインフルエンザウイルス感染症が蔓延し、今後も様々な感染症との共存が重要であり、当院はこれまで通り感染対策として3本柱(マスク着用、うがい、手洗い)を徹底継続してまいりたいと思っています。

さて、当院は田上心臓リハビリテーション病院に名称を変更し、基幹病院から多くの開心術後、慢性心不全、末梢動脈疾患などの患者様を多数受け入れさせて頂き、これまで以上に心臓リハビリに力を入れているところです。リハビリテーション学校からの心臓リハビリに興味のある学生の実習生を定期的に多く受け入れ、これまで同様、週1回の症例検討会、多彩な心疾患、心疾患に多く合併する慢性腎臓病や糖尿病などの勉強会を実施しています。職種は医師、看護師、理学療法士はさることながら医事課、臨床検査技師、社会福祉士の多職種間で行い、多方面から様々な意見の元、レベルアップはもちろんの事、患者様の情報交換、退院後のフォローの仕方等ディスカッションして取り組んでいます。

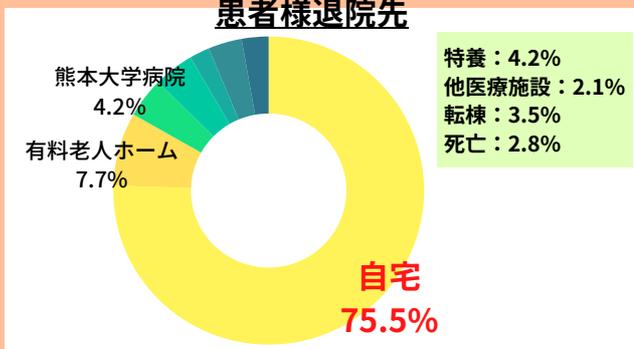
更に令和6年からは熊本県心臓リハビリテーション推進事業に参加協力し熊本県の心臓リハビリの一翼を担える存在に成長していく事を目標にし、これまで以上に当院スタッフ一同、一丸となって取り組み、期待に応えようと思っております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

理事長：田上 貴一

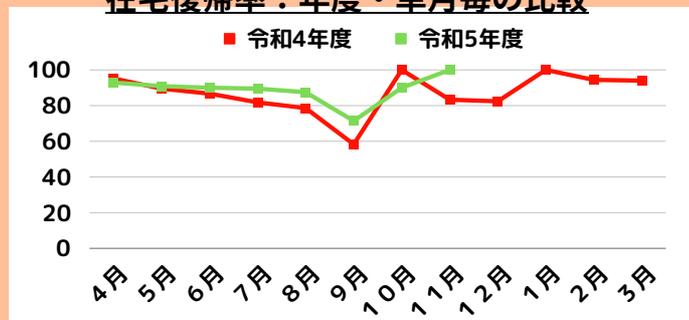
令和5年 地域包括ケア病床当院実績

(集計期間：令和5年 4月～11月分)

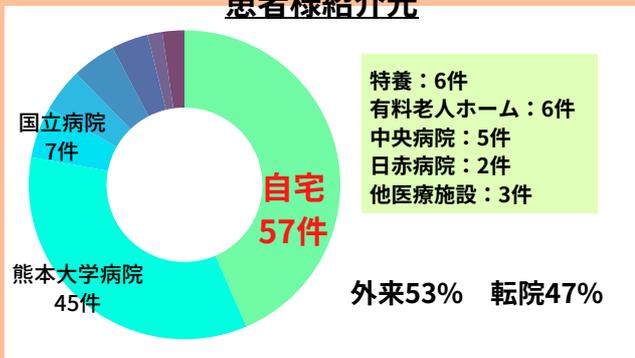
患者様退院先



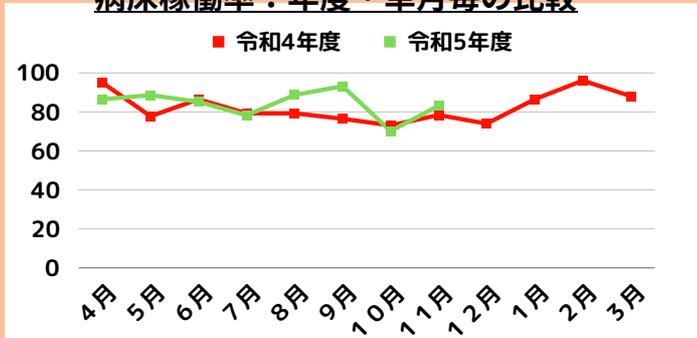
在宅復帰率：年度・単月毎の比較



患者様紹介元



病床稼働率：年度・単月毎の比較



明けましておめでとうございます。

旧年中も当院との医療連携に変わらぬご配慮を賜りました事、深く御礼を申し上げます。

当院地域包括ケア病床のポストアキュート機能・在宅復帰支援の確立に欠かせないものが、急性期病院との連携です。当院は熊本大学病院様をはじめ、熊本市内にある急性期、亜急性期病院様より、多くの患者様をご紹介頂いております。一方でサブアキュート機能を維持していくには、かかりつけ医として当院を選んでくださっている患者様の信頼を無下にしない事かと思います。

この様に、病床維持には連携と信頼が不可欠であり、そもそもこの事は病院として必要とされ続ける根幹でもあります。柔軟な姿勢が連携の基礎であり貢献と還元は信頼を育む。この事を肝に銘じ、これからも皆様に必要とされる病院であるよう努めて参ります。

引き続き、今年もご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

社会福祉士：米谷 凡子

各部署からのお知らせ

検査科より

検査実施数 比較

	心エコー	エルゴメーター	ホルター心電図
令和4年	571件	71件	32件
令和5年	652件	81件	58件

新年明けましておめでとうございます。

検査科には、臨床検査技師1名・放射線技師1名が在籍しております。

昨年は多くの患者様に検査を受けていただきました。

4月からはCT検査(342件実施)を、12月からは造影CT検査を導入しより詳しい検査が行えるようになりました。

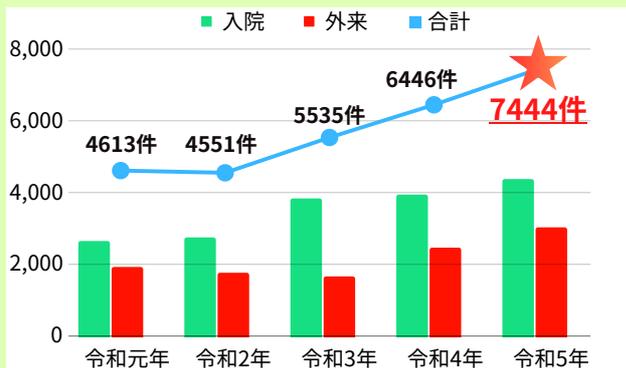
皆様にとって、安心・安全な検査を提供できるように技術の向上に努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いたします。



臨床検査技師：山下 美咲

リハビリテーション科より

心臓リハビリテーション実施件数



令和5年の当院リハビリテーション科の実績ですが、心臓リハビリテーション実施件数(昨年+998件)・CPX件数(昨年+5件)と昨年より増加し、より多くの患者様に係る機会を得る事が出来ました。

また、心臓リハビリテーション指導士を新たに1名取得することが出来ました。(在籍スタッフ：心臓リハビリテーション指導士8名 心不全療養指導士7名)

更に結果待ちですが、心電図検定に挑戦する等のスキルアップも図っています。

令和6年もより多くの患者様の力になれるように、心臓リハビリテーションに取り組んでまいりたいと思います。引き続き本年もよろしくお願いたします。

理学療法士：那須 信久

編集後記

日に新たに

生成AIと日本人の美德について

大嶋 秀一



明けましておめでとうございます。皆様のお陰で当院が力を入れております心臓リハビリテーションの件数は入院・外来とも昨年より著増しました。また4月よりCT導入、さらに12月より造影CTを開始し、日常臨床における診断精度の向上に努めております。今年も職員一同誠実な医療・看護に邁進する所存ですので何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年より生成AI(Generative AI)という耳慣れぬ言葉を頻りに聞くようになりました。先月開催された日本循環器学会九州地方会でも、生成AIによる心電図診断の講演があり、心電図の一誘導で将来の不整脈の発症を予測できるという画期的な内容でした。課題はその疾病対策と信頼性にあります。

地震の予知のように、例えば5年以内に致死的な不整脈が起こる可能性が70%以上あると診断された場合、抗不整脈薬や植え込み型除細動器を予防的に使用するかどうか、さらに昨今生成AIを使用した偽情報・偽画像その他悪用するケースが散見され、その信頼性をいかに担保するかが重要と考えられます。医療は患者のためであるというヒューマニズムと医学という科学のバランスとをいかにとっていくかが重要であり、そのためには必要なルール作りとともに、利に溺れず正直に生きる精神が重要だと思います。清廉という倫理観を持ち続けた日本人の典型として、私がとても尊敬している橋本龍一(あけみ)を紹介いたします。

〇たのしみはまれに魚(うお) 煮て兎等(こら) 皆がうまいうまうといひて食ふ時
 〇たのしみは心をおかぬ友だちと笑ひかたりて腹をよるとき

幕末の福井の歌人橋本龍一は歴史上格別名を成し功を遂げた人ではありませんが、自然を愛し家族を慈しみ利欲を求めず生きた人と言われています。夕食時でしょうか。橋本は清貧洗うがごとき貧乏で、久しぶりに煮魚が食卓に出て子供たちがうまいな、うまいなと言いがら食べている姿を見てにこにこしている龍一の顔が目にかぶようです。また二首目は近くの友達が来て、恐らく他愛もないことでお腹が痛くなるまで笑った日常の何気ない情景を歌ったのでしよう。「たのしみは」から始まる独楽吟52首はいずれも物質的には貧しい生活の中で生きる喜びの一時を詠んだものです。龍一は子供たちへの遺言でこう書き残しています。

「うそいふな。ものほしがるな、体だわるな(体を怠けさせるな)。求むるは至誠」現代風に言えば「正直であれ、物を欲しがらな、骨身を惜しむな、そしてまごころを持って」でしょうか。「正直」「知足(たるをしろ)」「勤勉」の3つを人生の鉄則として遺したので。特に欲には切りがありませんから、古来より「足るを知る心」は幸せを得る秘訣の一つとされています。

近い将来生成AIを使用した便利な時代が到来するでしょうが、これまで日本人の美德とされてきた、誠実・知足・勤勉はこれからも大事にしていきたい日本文化の精神と思われまします。

(参考図書 人生の師を見つけよう 岬 龍一郎 P.H.P.研究所)

診療時間

■月～金曜日/9:00-17:30 昼休み 12:00-12:30

■土曜日/9:00-12:00 土曜日の受付は12:00迄

※心療内科は田上理事長診察日(火・水・木)での対応

■休診日/日曜日・祝日・土曜日午後

※急患はこの限りではありません。来院前にお電話ください。HP:tanoue-heart-reha.com

病院情報

〒860-0842

熊本市中央区南千反畑町10-3

TEL:096-354-5885 FAX:096-354-5889

E-mail:info-tanoue@orion.ocn.ne.jp

QRコード



医療法人社団 大玄会

田上心臓リハビリテーション病院

TANOUE CARDIAC REHABILITATION HOSPITAL